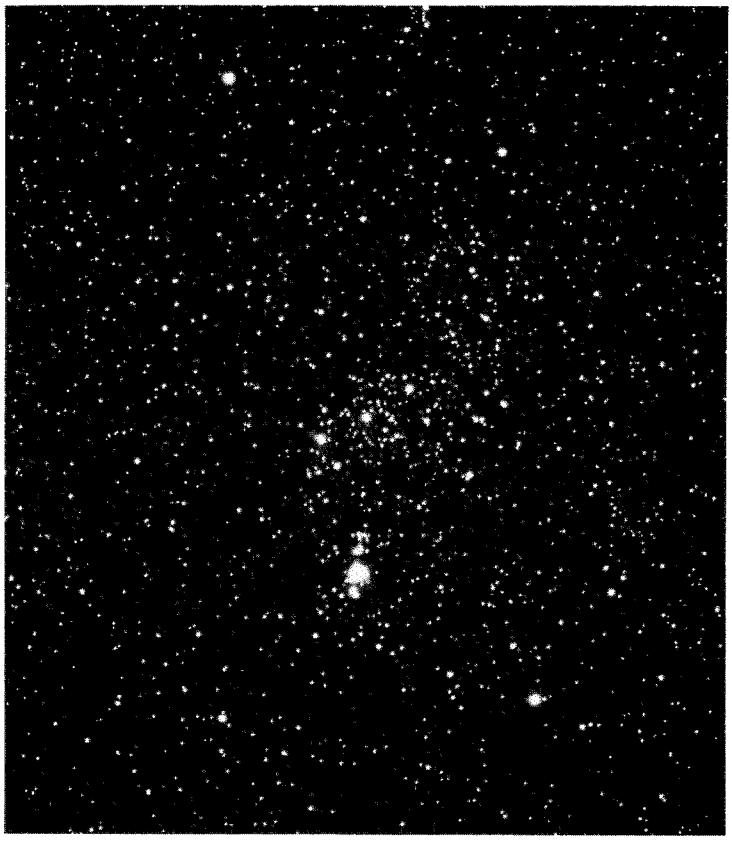
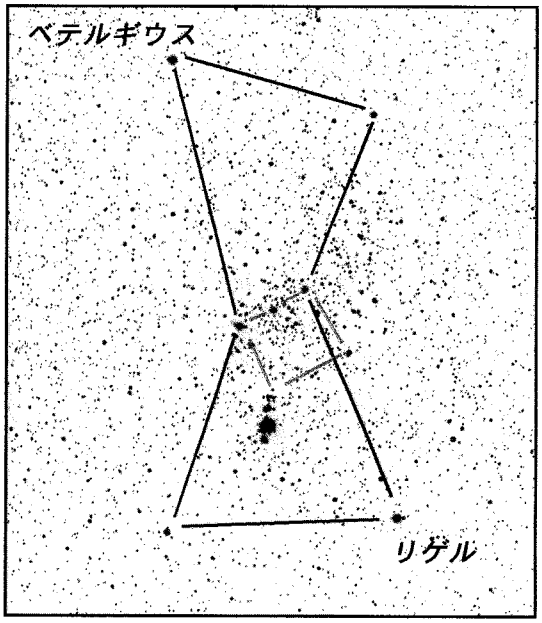
あるむぜお50

府中市郷土の森だより　al museo NO. 50　1999年12月20日



オリオン座 Orion
鼓(つづみ)星



星の歳時記

ヨーロッパや中国では、星空をいくつかの領域に分割し、星座や星宿を作りました。しかし、日本人は星空を体系的に分けるようなことをしていません。だからといって、全く星空を見ていないわけではないようです。日本各地で独自の名前を付けて呼んでいた星や星々があります。

冬の星座の中にも、いくつかあります。例えば、冬の代表的な星座の**オリオン座**は鼓星、その中央に３つ並んだ星を**三ツ星**、**三光**(さんこう)（日、月、星の名に転じたもの）、他にも**三大星**(さんだいしょう)、**三星様**(さんじょうさま)などいろいろあります。また、三ツ星の下の小さな３つの星を**小三ツ星**、三ツ星と小三ツ星を足して**酒枡星**(さかますぼし)と呼んでいました。また一等星のベテルギウスとリゲルを**平家星、源氏星**と呼び、それぞれ星の色を源平の旗の色に見立てたもので、よく観ていたなと感心させられます。実際、ベテルギウスが星の進化の上では最後の段階の赤色巨星であり、若々しいリゲルと対照的で史実にも合っているところが面白い。

星占いにも登場するおうし座の星々も和名の宝庫となっています。双眼鏡などでは宝石箱のように美しく輝くM45（プレアデス星団）は、お馴染(なじ)みの**すばる、羽子板星、六連星**(むつらぼし)**、ごちゃごちゃ星**etc.昔から注目度が高かったのがわかります。また、おうしの顔に当たるMel.111（ヒアデス星団）は、**釣鐘星**(つりがね)**、馬の面**、アルデバランはその色から**赤星、スマル（すばる）の尾の星**などと呼ばれていました。

日本では、ほんの一時それも南の空低いところに見えるりゅうこつ座の一等星カノープスは、**老人星**として知られ、条件が良くないと見ることが出来ないため、見ると長生きできるとか…。　（H）

展示会紹介

’９９ワイルドライフ写真大賞展

ＢＢＣワイルドライフ誌＋英国自然史博物館による

２０００年１月２３日～３月３１日　期間中の休館日：２月７日

Ａ　２０００年最初の展示会は恒例の〈ワイルドライフ〉だってさ。

Ｂ　けっこう世界的に知られている、自然をテーマにした写真コンテストなのよね。イギリスのＢＢＣと英国自然史博物館が毎年主催している。受賞作品の日本での最初の公開会場が府中郷土の森なの。毎年見に行ってるけど、見事だわ。迫力あってとてもきれい。

Ａ　２月になれば、郷土の森の梅も咲くだろ。そしたら見に行こうよ。

Ｂ　それまで待ちきれないわよ。わたし、すぐ行く。常設展もプラネもひとりでゆっくり見たいしね。

◇　◇　◇　◇　◇

Ａ　〈ワイルドライフ〉、ぼくも見てきたよ。すばらしい作品ばかりだった。

Ｂ　わたしも行ったわ。今年はかわいい動物がいっぱい。大自然のなかに動物たちが実に生き生きしていた。自然って、すばらしい。

Ａ　おいおい、自然は恐いものだ。この１年のニュースを見てもそうだろ。地震や旱魃（かんばつ）や洪水が世界各地で起きている。世紀末だね。人間の歴史とは、自然との闘いの歴史と言ってもいい。人間がとうとう自然に敗北する。

Ｂ　でも、写真は実に不思議な魅力があるわ。自然の脅威でさえも、あんなに完璧（かんぺき）な美しい映像にしてしまうからよ。

Ａ　わかった。だからもう一度、今度は一緒に見に行こうよ。

Paulet Island , Antarctica

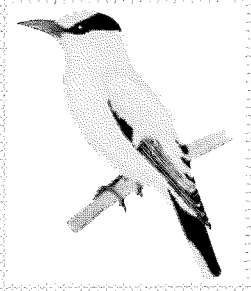
Young olive baboon

ミニ展　展示でみる、森の野鳥観察ー冬編ー

会期：1/23(日)～3/31(金)

郷土の森も開設後10年以上も経て、各種樹木や雑木林の下草も成長し、自然の生態系もある程度形作られてきました。これに平行して、観察で確認される野鳥の種類が増加し、中にはねぐらとして利用するもの、あるいは営巣（えいそう）するものも見られるようになってきたのです。

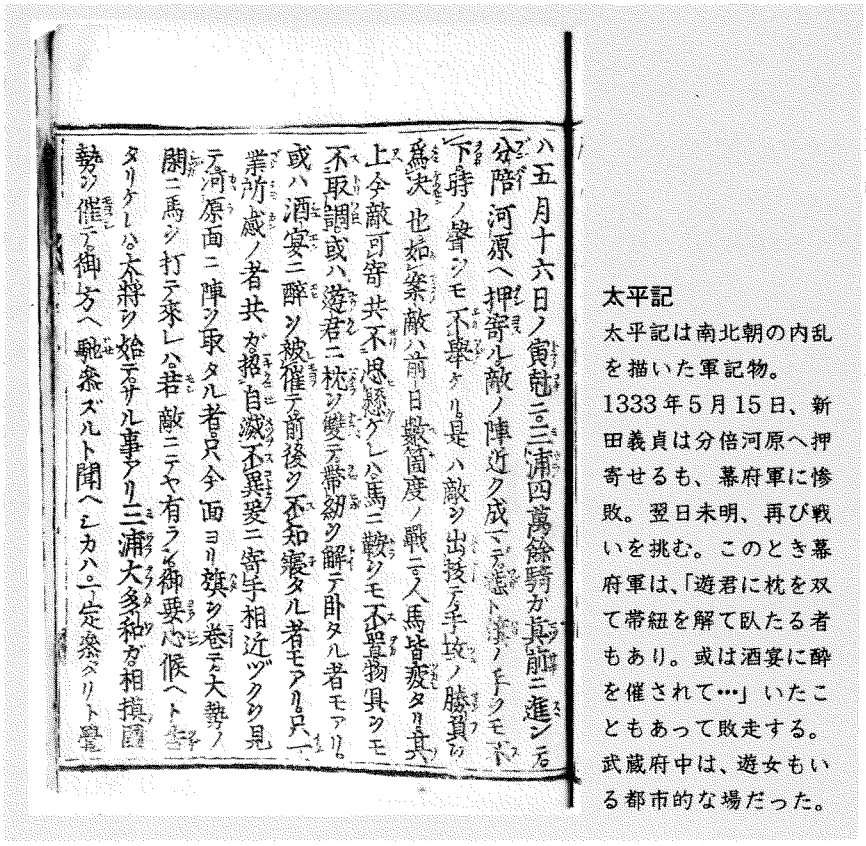
季節は冬、園内ではどんな種類の野鳥が観察されるのでしょうか？また、郷土の森に隣接する多摩川に飛来する野鳥の種類は？普段は野外で行う野鳥の観察会を剥製（はくせい）、展示パネルを使った、展示バージョンで試みようと思います。



「府中」を考える③

「府中」の原型は何か

深澤　靖幸



太平記
太平記は南北朝の内乱を描いた軍記物。1333年5月15日、新田義貞は分倍河原へ押寄せるも、幕府軍に惨敗。翌日未明、再び戦いを挑む。このとき幕府軍は、「遊君に枕を双て帯紐を解て臥たる者もあり。或は酒宴に酔を催されて…」いたこともあって敗走する。武蔵府中は、遊女もいる都市的な場だった。

なぜ各地で「府中」が

これまでに、全国各地に府中があること、その多くは古代国府の所在地であり、鎌倉時代の末から南北朝時代にかけて「国府」から「府中」へと変換したことを確認しました。その上で、「府中」は中世的な領域と機能を持った、いわば都市的な空間であり、「府中」の地域名称には、そこに住む人々のアイデンティティが表現されていると考えました。

そこでは、中世的な領域と機能を持った都市的な空間の成立が、この変換を促したとも考えました。

ただ、鎌倉時代の末から南北朝時代にかけてのこうした変換が、全国的・普遍的な出来事ではあっても、その多くが「府中」という地域名称を採用した理由にはなりません。

原型は「洛中」

この理由を考えるにあたって思い起こされるのは「洛中」という地域名です。

「洛中」という言葉にはあまり馴染みがないかもしれませんが、京都の市中とその郊外の風俗を描いた『洛中洛外図屏風』の存在を知っている方は多いのではないでしょうか。「洛中」とは、中世京都の都市域を指す地域名称なのです。

平安京は10世紀以降、右京が衰退し、左京のみが都市的発展を遂げるのですが、そもそも、左京を洛陽、右京を長安と呼んでいたため、11世紀の末頃から都市・京都を「洛中」とか「京洛」と呼ぶようになったのです。『洛中洛外図屏風』の作成は中世末から近世初頭のことですが、「洛中」とか「京洛」の呼称は11世紀末頃から確認できるようです。

王権所在地・京都の動向が、地方統治の拠点である国府に与えた影響は少なくないはずです。京都における「洛中」の成立、そしてその定着こそが、各地の国府を「府中」へと変換させた背景と考えてはどうでしょうか。

だれが「府中」と呼んだか

先に、「府中」という名称には、そこに住む人々のアイデンティティが表現されているといいました。こう考えると、いかにもそれぞれの各地の国府で、そこに住む人々が「府中」の名称を唱え始めたように感じてしまいますが、それは間違いでしょう。各地で、鎌倉時代末から南北朝時代という限られた時期に「府中」名称が成立・定着していることからすると、その発生は一元的であるはずです。

そして、「府中」の原型が「洛中」にあることを踏まえれば、「府中」と呼んだのは「洛中」に住む人々であったと考えるべきです。都人が、地方統治の拠点である「国府」を自らの「洛中」になぞらえて「府中」と呼ぶようになったのでしょう。

ただその際、「国府」の町が中世的な領域と機能を持った町へと変化し、住民が都市民として定着性を増していたというのも重要な事実です。「国府」住人にとって「洛中」が憧れの都だったことも見逃せません。

「国府」の側にこうした質的な変化や憧れがあったからこそ、「府中」は各地の「国府」住人にも受け入れられ、定着したのだと思います。「国府」の住人にとっても、都市的な領域としての意味を含んだ「府中」に新しいニュアンスを感じ取り、自らのアイデンティティを表現する地域名称として「府中」に魅力があったのでしょう。「府中」という地域名称の誕生には、内外さまざまな要因がはたらいたといえます。

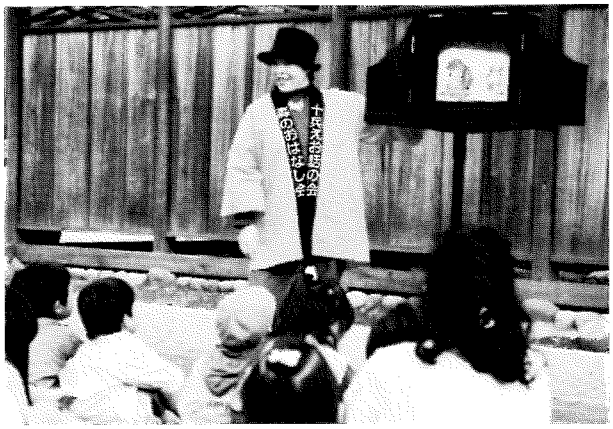
NOTE

街頭紙芝居を見ましたか？

馬場　治子

▼街頭紙芝居を知っていますか

郷土の森の毎月第4土曜日、午後になると、郵便取扱所の脇、赤ポストの傍で十兵えお話の会の皆さんによる紙芝居が始まります。通路に座り込んだ親子連れの楽しそうな様子。



これは、博物館として街並の今日的景観復原の一環でもありますが、頑丈な自転車の荷台に、駄菓子を詰めた引出しのついた木箱と、折りたたみの木枠を積んだ紙芝居屋のおじさんが、町角で子どもたちを集めている風景を懐かしいと思い出せる世代はもう50代以上に限られるでしょうか。

第二次世界大戦をはさんで、年号で言えば昭和の初めから30年代までがその全盛期でした。日本経済が高度成長に入る前、まだテレビが子どもの生活を牛耳る前の事でした。

今、私たちが“紙芝居”と言っているのは、平面に描かれた絵(平絵)を聴衆に見せながら、ストーリーを語っていくものですが、その源流をたどると江戸時代後期、享和年間(1801～1804)まで遡ります。

その頃オランダ渡りの、透過光線によって絵を拡大映写して見せる、いわゆる幻灯が興行されており、その静止画を動いているように見せようと考案されたのが“写絵”でした。これは複数枚のタネ絵をスライドさせて、網膜の残像現象を利用した、言わば世界初のアニメーション。タネ絵を錦絵のように彩色したものは“錦影絵”と呼ばれました。

これらは江戸でも上方でも大人気を博し隆盛を極めました。多摩地区でもよく興行されたらしく、三宅島に流されていたあの小金井小次郎も、島で上演したいので写絵の装置一式を見つけて送って欲しいと依頼した手紙が残っているそうです。

しかしこの写絵をするには、光源や装置が必要ですし、日のあたる場所では見えにくく、興行はなかなか手のかかるものでした。加えて、明治30年代、20世紀の訪れと共に映画が大流行し、その姿を消していきました。

写絵をもっと簡便に上演し易くしたのが、一枚の紙の裏表に違う絵を描いて黒幕の前で動かしてみせる“立絵”です。紙芝居と言う言葉は、これが「写絵ではなく、ただの紙人形の芝居じゃないか」と言われたところから始まったとか。立絵は昭和初期の不況の頃、縁日や祭礼の小屋公演だけでなく、自転車で移動して普段の街頭でも演じたり、飴を売りながら見せたりして、後の街頭紙芝居の原形となりました。

しかし、木枠の舞台の中で、紙人形で見せる芝居は動きが小さく、迫力に乏しいものです。一方この頃には映画の普及によって、人々はクローズアップや俯瞰のショットで映像の面白さを手にしていました。これを平面の静止画に移し替えたのが“紙芝居”です。飴売りが原因で、昭和4年(1929)に警察から弾圧を受けた立絵に代わり、その後は平絵紙芝居の全盛を迎えることになりました。

▼手描きの紙芝居と印刷の紙芝居

街頭で演じられた紙芝居は、手描きした絵を厚紙に張り、大体12～13枚で1回分のセットにしていた様で、それを各地の紙芝居屋さんが貸元を通じて順繰りに使い回していました。

語りの方は、ストーリーの展開と大まかな“せりふ”しか記されていないものが多かったのです。それを、アドリブを交え、脚色してどう聞かせるかが、小さな舞台での演出家と俳優を兼ねた、紙芝居屋のおじさんの力量だったのです。

内容は「黄金バット」に代表されるような冒険活劇、時代劇、母子もの、ギャグ漫画風のもの等々で、明治以降の大衆読み物の世界を反映しています。しかし、子ども文化といえども時代の制約からは逃れられないのであり、大人文化の反映であるという点から見ると、戦前のナショナリズムの高揚、軍国主義的傾向はこれらの中にも現われて来ました。

こういう状況の中で、一方では通俗・卑俗と非難しながらも、“紙芝居は子どものアヘン”だと新聞の投書に載るくらいに子どもたちの心を掴んでいるメディアを、教育的に利用しようとする動きも出てきます。最初に取入れたのはキリスト教の伝道でしたが、やがて学校や成人教育にも拡がりました。

この方面で用いられたものは、街頭紙芝居に対し、教育紙芝居と称され、印刷物として出版されることが多かったので印刷紙芝居とも呼ばれます。特に留意す

るのは、戦争協力など国策に沿った紙芝居の多くがこの系統に属すことです。

勿論この点は、手描系が全く免れ得たわけではなく、日中戦争の始まった昭和12年(1937)からは、警視庁による検閲が紙芝居にも及び、事前の台本記入が義務づけられました。

▼郷土の森　館蔵紙芝居

ところで、今回「あるむぜお」誌上で紙芝居について書いているは、館蔵資料の戦前の紙芝居をご紹介したいからです。ほんの一部だけは今夏のミニ展「読本・双六・紙芝居－昭和前期 子どもの見たもの、見せられたもの」で展示しましたが、資料報告はされたことがありません。

これらは当館の前身である府中市立郷土館から引継いだ資料なのですが、その受入の経過が記録されていません。その為、どこでどの様に使われていたものなのか不明なのですが、タイトルや警察の検閲印からみると、第2次世界大戦前から戦中に作られたものです。リストは下表の通りですが、傷みも激しく、全巻揃っていないものがほとんどで、だからこそ、これらが如何によく使われたか、が窺えます。

当館には旧府中町立尋常高等小学校の校舎が復原されている関係で、その資料も収蔵されていますので、或いは小学校で使われたものか、とも思われます。しかし、手描きの物が多いこと、送り先住所が記されているものもある所からしても、街頭紙芝居で使われたと見る方が妥当でしょう。

「悪魔の笑ひ」は江戸川乱歩の世界にも近い、昭和前期の少年読み物風の趣がありますし、「五十鈴姫」や「夜光蜘蛛」の時代活劇には血湧き肉踊ったことでしょう。

しかし「日の丸チャン坊」の場合は、「フクちゃん」を思い出させるほのぼのしたストーリーであるにもかかわらず、主人公の髪形は日の丸のついた辮髪風で、そのネーミングからも当時の日本の中国感が顕著です。最近の「ちびくろサンボ」の問題にもつながる事ととして、差別

感の子供への伝達ということを考えざるを得ません。

また、巻数や枚数の不揃いからは、紛失したところは抜かして話を続けてしまった様子なども見えます。

▼府中の紙芝居

府中市域で紙芝居がどんな様子だったのか記録されているものは無いので、数人にお話を伺ってみました。

昭和8～9年頃から紙芝居屋さんは来ていたようですが、場所としてあがったのは大国魂神社の境内、称名寺、高安寺、長福寺等のお寺の前、片町の踏切の傍(現片町文化センター)、と甲州街道に沿った地点がありました。人見街道にも来ていたそうです。1ヵ所で見逃すと次の所へ追いかけて行って見たとか、飴が1銭だったとか、話は尽きません。

また、当時の多磨小学校(現第4小学校)では熱心な先生がいらして、市販のもの(印刷紙芝居)だが150セット位の紙芝居を備えていたそうです。

まだこの頃のことなら話の聞ける方がたくさんいらっしゃるので、一度本格的な調査をして、ほんの30年程の間ではあっても、確かに子ども達の心を捉えた街頭紙芝居という文化を記録しておきたいものです。

参考文献:足立区立郷土博物館「黄金バットの時代　街頭紙芝居の人々」
アサヒグラフ別冊「戦中・戦後紙芝居集成」 大空社「紙芝居大系」

お話を聞いた方:石井由光　菊地鋭雄　白須スギ　矢島中の皆さん

郷土の森博物館所蔵紙芝居

	題名	作者・発行	巻数	枚数	制作手法	発行年	検閲印初出年
1	悪魔の笑ひ	天佑映画社	16～36の内18巻	116枚	手描		昭和13年2月
2	五十鈴姫	英ちゃん紙芝居	1～17の内13巻	97枚	手描		昭和13年2月
3	夜光蜘蛛	大日本画劇株式会社	1～13の内10巻	68枚	手描		昭和13年7月
4	日の丸チャン坊	天佑映画社	7巻	40枚	手描		昭和13年11月
5	マッチの火	中弘紙芝居協会	1巻	6枚	手描		昭和14年7月
6	手	脚本：吉田春 絵画：羽室邦彦 製作：日本教育紙芝居協会	1巻	23枚	印刷	昭和16年8月	
7	殊勲甲	画：芝山三郎 原作：小林夜詩男	1巻	20枚	印刷	昭和18年9月	
8	花は揺がず	作：武田亜公 画：辰巳まさ江	1巻	15枚	印刷	昭和19年10月	
9	魔剱	龍生会	1巻	3枚	手描		

※この外、若干の不明分がある

がめらと～きんぐ

和同開珎関係遺跡を歩く

9/19－10/24に開催の特別展「和同開珎」ではおよそ150件、400点近くの資料を展示。借用先は26機関に及んだ。およそ1年前から原案を作り始め、昨年末から少しずつ、出品する資料を求めて各地へ。同時に、和同開珎の関係遺跡を訪ね歩いた。その遺跡をダイジェストで紹介しよう。

秩父市黒谷にある埼玉県指定旧跡・和銅採掘遺跡を訪れたのは昨年の12月。
遺跡に建つモニュメントの大きさにビックリ！
下の写真が露天掘りの跡との伝承を持つ大きな溝。

京都府相楽郡加茂町にある銭司遺跡へは、関西方面2度目(3月)の資料調査の時。恭仁宮の東方にあり、和同開珎を鋳造したといわれる遺跡である。
京都からJR奈良線で南下、木津で関西本線に乗り換えて1駅目の加茂が最寄り駅だ。30分程度かと思っていたが、片道1時間も歩いてしまった。この写真だけは絶対に展示にも解説書にも使おうと、歩きながら決めた。

関西方面の出品資料が決まってから、6月には山口へ。美東町・長登銅山跡は、和同開珎の原料である銅を採掘・製錬した遺跡。出土品は是非とも展示に加えたい。地元の教育委員会を訪ねて資料調査。生憎の雨降りだったが、銅山跡にも案内してもらった。

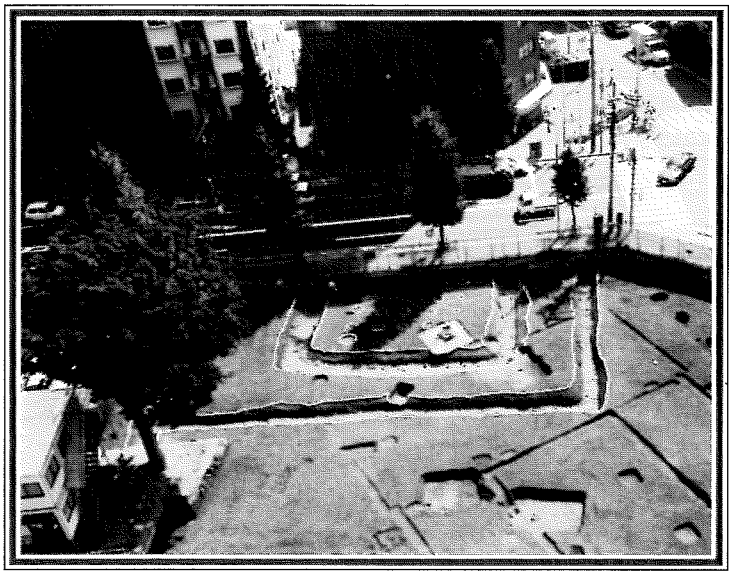
その翌日、下関市にある覚苑寺へ。かつて境内から和同開珎の鋳型をはじめ鋳銭関連遺物が出土し、長門鋳銭司の跡として国指定の史跡になっている。

最近の発掘調査

武蔵国府のお社か

寿町2丁目 住宅展示場跡地地区から

府中市遺跡調査会　西野善勝



北から

今回、府中市寿町2丁目の住宅展示場跡で、二重の溝に囲まれた掘立柱建物跡が発見されました。国府を守る神を祀った施設と思われる遺構です。発見場所は、武蔵国府跡内の西寄りの位置にあたります。これまでの調査でも、古代の役所に関係すると思われる建物跡や溝が、多く発見されている地域です。

発見された掘立柱建物跡は、当然のことながら柱穴しか発見されていないので、当時どのような建物が建てらていたものかわかりません。しかし柱の大きさや深さからは、それほど大きな建物ではなかったと思われます。現在のところ、2間×2間の柱間をもつ身舎の四周に1間の廂が取り付く建物と推定しています。これと同じような構造を持つ古代の遺構は、群馬県前橋市で発見された鳥羽遺跡の例があるだけです。

溝の中から出土した遺物などから推察すると、平安時代の前期（9世紀代）以前には構築されていたものと考えられます。

現在のところ、建物跡の性格を知る手掛かりとなる遺物は発見されていません。しかし、溝や掘立柱建物跡周辺に遺物が捨てられていないことや、溝の内側には掘立柱建物跡のほかに古代の遺構が全くないことから、ここが当時の人々の日常生活の空間から隔てられた神聖な場所であったと考えることができます。

発見された遺構の位置は、国庁推定地の北西で、西へ450m(約4町)、北へ550m(約5町)にあります。また、武蔵国分僧寺の中軸線を南へ延長し、同時に七重塔を起点にして、中軸線に平行する線を南へ延ばすと、この二本の線の中央に今回発見された遺構が位置しています。これらは一連の計画のもとに配されている可能性が感じられます。

当時、中国より輸入された方位説では、北東（丑寅＝艮）を鬼門として恐れていました。しかし元来は、北西（戌亥＝乾）の方角から来るものに対して、きわめて恐れ慎む習慣があったといいます。そのため、北西の隅に神を祀り、忌み慎んで時事に従っていれば、そこから福徳がもたらされると考えられていたようです。平安時代の記録書である『日本三代実録』をみると、都にあるいくつかの役所に戌亥隅神が置かれていたことが記載されています。

今回の遺構の特徴と合わせて考えると、国府の北西隅にも同様の信仰による社が置かれていたと推察できます。また、この場所を境にして武蔵国府の内と外を分けていたことも考えられます。

今回の発見は武蔵国府を解明する大きな手掛かりになります。古代の国府の姿は、より具体的に復元されて行くでしょう。

国府とは

律令制では、全国を66国2島に分け、国の規模により大・上・中・下国とし、各国ごとに役所である国府が置かれていました。武蔵国は大国で、国府は現在の府中市に置かれ、国庁という国の役所の中枢施設がありました。現在の大国魂神社の東地域が推定地とされています。また、武蔵国府跡の範囲には、一般人の居住地域も含み、国庁および国庁周辺に造営された官舎群を国衙と呼んでいます。

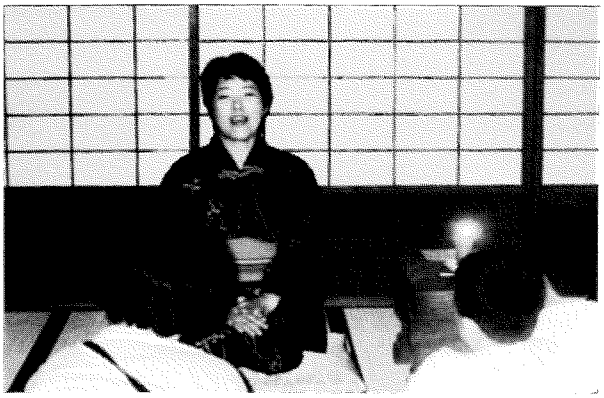
ザ・プロフェショナル　十兵えお話の会

蔵内　睦子

むかしむかしあるところに、小さなかやぶきのお家があり)ました。そこには人が住まなくなったので郷土の森に移されました。たくさんの人がおとずれて「なつかしいねえ」と言ってくれます。でも、お家はやっぱり)ちょっとさみしかったのです。「ここでお母さんの声がしたり)、子どもたちが育ってくれたらどんなに嬉しいだろう…。」

そうして始まったのが森のお話会。もう10年以上、毎月第2土曜日の午後、越智家住宅のイロリ端で、昔話や民話を語ってくださっている蔵内睦子さん。この間に、仲間が増えて、十兵えお話の会もできました。

インタビュアー　HARUKO



蔵内さんがお話を始めたきっかけは？

蔵内（以下K）：児童館で息子に本を読み聞かせていたら、他の子も一緒に聞かせてやって、と頼まれたこと。1～2回して、素話の方がいいかなって思ったのね。お話の方が理解され易い気もして、それが28年前のことです。

最初はいはば自己流で始めたわけですか

K：そうです。暗中模索という感じでねぇ。理想みたいなものはぼんやりとあったんだけど、それがくっきりと見えるようになたのは、松岡享子先生の、東京子ども図書館のお話を聞かせて頂いた時ね。

お話というのは、ストーリーを語るのであって、それを劇的に作り替えたりするのではない、というのが分かってからは迷うことはなくなりました。

郷土の森でするのはどうですか？

K：雰囲気からして昔話に適しているからやり易い。年令差なく、子どもから大人まで一緒に聞くというところに、何かしら暖かさみたいなものが感じられて、いいことじゃないのかなぁと思うの。ここは市民の憩いの場だし、ふるさとを想い出したり、昔を懐かしんだり、そうすることで原点に帰って、また次へ進んでもらいたい。そういう場所だと思うから、お話もまずそんな事を目的にしたいな、という気持ちが有ります。

世代を超えて心豊かに生きて欲しい。殺伐とした世の中で、ほっと息を抜ける一時を作りたい。

心の一次避難場所ですか

K：今のところそれが一番。

ひとりでも聞く子がいたらやるわよって、始めてくださってから、お話会は1回も休まずなんですよね。続けてこられたのはすごい！

K：大雪でも何人か必ずいてね。こういう人がいる限りやめられない。お蔭様で語る仲間も増えたしね。

仲間が増えた要因は何でした？

K：やっぱりお話が好きということ、それと今の世の中に欠けているものを求めようとしている。

聞く人だけでなくやる方の人が？

K：そう。なんていうか、それを広めたいっていう気持ちを持ってると思うの。まず、日本の暖かい言葉がなくなっているでしょ。お話の中にはそれがきちんと残っているのだから、それを伝えるのも一つの使命だと思うの。文化の継承なんて言うとちょっとおこがましいんだけど、知らず知らずのうちに、昔の生活の知恵的なものも入ってるし。

読み聞かせからお話、やはり読書につなげたい？

K：お話をきっかけにして本の世界に入ってくれたらすごく嬉しいんですけど。

レパートリーは50話くらいだそうですが、御自身はどんなお話が好き？

K：笑い話。でも非常に難しくって。自分で面白がってても笑ってもらえなかったら、という恐怖…。

蔵内さんでも恐怖？

K：そうだわよ。もし何の反応もなかったら落ち込むから。不思議な話、ヨーロッパのグリム的なお話も魅力あります。歴史のある話には力があるからどんな人にも受け入れられるし、いつでも安心して語れる。本当に昔から伝わっているお話は人を選ばない。

それにつけても続けてお話を聞いて欲しいですね。

K：リピーターのお客さんがいるのが嬉しいわね。

郷土の森の民家でお話できるのは本当に幸せ。こんな素晴らしい場所でできてありがたいわ。

古い家自体の力ってありますよね。

K：それなの！絶対それは大きいと思う。

場所の持つオーラみたいなもの

K：その中に入るとその雰囲気に染まってしまう。気持ちもゆったりして聞く気になるもの。

今日は蔵内さんのお話に対する情熱一杯のお気持ちを聞かせて頂いてありがとうございました。これからも末永くよろしくお願いします。

※ あるむぜお　イタリア語で‘博物館で’‘博物館にて’の意

発　行：(財) 府中文化振興財団 府中市郷土の森

府中市郷土の森だより〈あるむぜお〉第五〇号　発行日　一九九九年一二月二〇日　編集・発行　(財)府中文化振興財団 府中市郷土の森　〒一八三―〇〇二六　東京都府中市南町六～三二　電話　〇四二（三六八）七九二一